

公表日

2026年3月25日

事業所名

こぼんはうさくら 神鳥谷教室

保護者等数(児童数) 24名

回収数 18件(割合75%)

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17			1	常時しっかり見ていただけていると感じています。	TEACCHプログラムを導入し、活動毎にスペースを分け、分かりやすい教室作りを心掛けている旨を資料を元にご説明しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17			1		毎日の清掃、消毒を引き続き継続していく。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	1			何か問題がおきて相談した後、改善できる方向性を提案してもらえています。	事業所新聞や連絡帳にてお呼びかけしている発達相談を、送迎時やお迎え時にもお伝えするなど、周知していく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17			1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17			1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18					スタッフミーティングで確認しながら、支援計画に沿った課題設定を行い、確認している。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17			1		各プログラム、見直しながらサイクルをまわしている。
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	2	4	6	通園している認定こども園ともやりとりしてもらえて助かっています。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	1		4	研修回答は不明ですが、個別相談した際に関わり方のアドバイスを頂いています。	引き続き事業所新聞での呼びかけや、資料の配布等行い利用に繋げていく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	17	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18				定期的な面談に加え、こちらからの疑問や相談に親身になって対応して下さっています。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	4	5	7		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	2			発達相談を素早く受ける事ができて感謝しています。	引き続き事業所新聞や、連絡帳だけでなく送迎時、お迎え時にもお声がけし周知していく。

保護者への説明等	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	1	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16	1	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18				子供にとって安心できる場所となっており、毎週楽しみに通わせていただいています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	1			4年以上通わせていただいている中で『行きたくない』などのマイナスな発言は一度も聞いたことないくらいです。
	29	事業所の支援に満足していますか。	18				親子ともども大変満足しております。こぼんはうすさんのお陰でここまでられました。

公表日

2026年3月25日

事業所名

こぼんはうすさくら 神鳥谷教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		スペースの確保のため、環境整理を徹底し、備品等も管理している。	支援スペース外では雑多な箇所が多くみられる。災害における整理等、徹底していきたい。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		シフト希望の際には職員間で話し合い、休みを調整できている。	学校行事等が重なることがあり、無理を生じることもあるが、半休等で対応していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		teeachの活用により、行動と場面がセットになっており行動生じしやすい。	バリアフリー等の説明を教職員や利用者に行う機会を検討したい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		朝、夕方の清掃や衛生管理ができている。	経年劣化箇所は修復しながら安全確保したい。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		朝のミーティングで必ず見直しやニーズも含めた話し合いが持てている。	遅番のスタッフ参加が難しく、伝達手段の見直しを検討したい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎年、前利用者に行うことが出来ている。	話し合い、検討会を持てているが、方向性の確認にとどまる項目もある。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		相談や提案しやすい環境を提供してもらっている。	引き続き教室全体の活性化と支援の向上のため、重要視していきたい。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		専門職による研修が充実している。	近年は不参加を希望するスタッフが増えており、全員参加を目指していきたい。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		専門職を現場スタッフにより見直しながら構築できている。	引き続き紙面、参観の機会を提供し、把握していただく。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		専門的なアセスメントを提供している。保護者のニーズの確認もできている。	支援内容の見える化や安心、信頼の確保のため、保護者面談をモニタリング外でも検討したい。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		現場の声を聞いて作成している。会議において決定できている。	時間の確保が難しいことが多いのが難点だが、なるべく全員参加で検討したい。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		行動観察、専門的なアセスメントを提供できている。	引き続き、フォーマル、インフォーマル両側面から状態把握したい。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインに沿った内容となっている。	引き続き、保護者ニーズの確認の段階から領域に沿った聞き取りをしていきたい。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		立案を専門職が行い、チームで色付けできている。	全職員が立案できるよう知識の補充や研修の充実を図りたい。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		ご利用の児童のニーズに合わせて内容を見直すなど出来ている。	引き続きチームでの立案に加え、見直しを徹底しながら工夫していきたい。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別課題と集団での課題を分け、領域に沿って作成された計画に準じている。	プログラムが分かれており個性や集団に応じての支援を引き続き進めていきたい。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		役割の確認、引継ぎ等、必ず伝達し確認できている。	今後もミーティングを充実させていきたい。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		時間の関係上、話し合いは難しいため、日報への記載を徹底している。	

関係機関や保護者との連携	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日報は具体的に書き入れ、質問事項もまとめておくことで改善に繋がっている。	シフト上、ミーティング参加が難しいスタッフの質問手段の確保を見直したい。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しを判断し、適切な見直しを行っているか。	6		相談員の訪問、保護者面談など適切。		
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		専門職が参加している。 参加前には必ず状態の確認がなされ、必要事項が共有されていると思う。	参加後は共有のための会議を設けている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			訪問や電話での連携など広く体制化できている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		ミーティングや研修において、インクルーシブな視点での療育を学ばせてもらった。	発達の観点から考える見通しの立った支援や未来につながる関わり方をスタッフへ伝える場を設けている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			関係機関との連携に努めている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答)		6				
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。						
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		外出の機会はない。 午前中は公園に出かけ、少しずつ交流も増えてきた。	見直しが必要な点だと理解している。 プログラムの内容やニーズ重視になっており、外出機会が少ない。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			連絡帳を充実させている。	参観を推奨させていただき、その際、個別課題は教材を確認してもらい、質疑応答の場としている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			母子支援が事業所の強みになっている。 母子支援のニーズで相談員から紹介が増えている。	お子様の成長を考え、ご家族の支援やご協力を大切に考えている。今後も機会を設けていきたい。一方で窓口になるスタッフ配置があれば尚、繋がると思う。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			ご契約時にご説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			意思決定やニーズの把握に努めている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			面談の時間が十分に確保されている。	面談をもう少し充実させたい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			専門職による発達相談がある。	全スタッフがお困りの保護者へ声をかけ、発達相談に繋がれると良いと思う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6				
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			すぐに対応できている。 電話での相談では緊急度に応じて長い時間かけてご相談に対応している。	都度都度のご相談へ対応させていただいているが、発達相談へ繋がると良い。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			こぼん通信はスタッフも勉強になる内容となっている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			厳格に留意できている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			連絡帳の書き方や伝達事項は事前に確認の上でなされている。	見える化や簡素化などよりよい手段を取り入れたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6			地域柄、招待には至っていない。 個人情報の観点から難しい面もある。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		通信や案内で発信、実施している。	安全計画に沿った実施を行っている。避難訓練や消火訓練など保護者を交えて行う機会を検討したい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		毎月安全計画に沿った訓練が入っている。	計画に準じている。今後も見直しながら改善点を把握し、実行していきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		徹底している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アレルギーに関してはトリプルチェックを行い、間違いがないようにしている。	新しいスタッフには必ず周知、研修を行い、既存スタッフと共に徹底している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		通信や連絡帳で周知している。	契約の際や面談の際により詳しいご説明の機会を設けている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ミーティングに加えてヒヤリハットへの記載を行い、再発防止はチームで取り組んでいる。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修を行っている。	虐待防止研修のみならずスタッフのメンタル状態把握や意識改革を定期的に行ってきたい。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		そのような事例があった際には徹底した時間や可能性について支援計画へ記載、保護者の確認・同意が必要だと全スタッフ認識できている。	